

平成28年度 事業報告書

大慈ほまれ幼保連携型認定こども園

1. ≪平成28年度法人ヴィジョン≫

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. ≪ヴィジョン≫

- ①より良い環境作り、(家庭的な雰囲気の中で過ごす)
- ②一人一人を大切にする保育の継承
- ③保育者の人間力、保育力の向上
- ④人材確保

3. ≪基本方針≫

- ①教育・保育要領の内容を遵守し、家庭的な雰囲気の中で、教育・保育目標に向かってみんな協力して保育を行う。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③安全を第一に考え、子どもが安心して過ごせるようにする。

4. ≪中長期計画≫

- ①こども園を地域に知っていただき、交流が持てるように努める。
- ②子どもや保護者に寄り添い、安定した保育を行う。
- ③楽しみながら身に付くように教育を行う。
- ④研修の充実を図る。
- ⑤新制度の開始に伴い、保護者が安心してこども園を利用出来るように配慮する。

5. ≪平成28年度目標≫

- ①地域にこども園を知っていただけるようになり、交流・信頼関係が築けるよう積極的に関わる。
→近くの公立の保育所や区の5歳児交流会、リハビリステーション専門学院との交流を実施した。
湊町公園に行く途中の八百屋さんとの挨拶の交わし合い
- ②理念をよく理解し、子どもや保護者に寄り添い、信頼関係を築き友育てをする。
→情報を発信したり、相談を受ける等、積極的に声を掛ける機会を作った。何かあった時は即日対応を常に意識し、より良い関係に努めた。
- ③特色・サービスの視覚化を図る。
→「ほまれっこだより」の更新を行事毎に行った。
- ④子どもが楽しんで取り組み、総合的に成長を促す。
→体力作りで、サーキット遊びや律動を決まった時間や決まった日に行い、積み重ねを強化した。朝の運動遊びを見直した。
- ⑤運動遊びや律動を全員で行い、子どもの体力作りを強化し、職員力を高め合う。

→律動と共に運動遊びを3園で再度見直し、次年度に向けて計画を立て直した。

⑥職場内・職場外研修を行い、全職員で共通理解し向上を図る。

→会議時の研修報告により、共通理解し、園全体で取り組むこととしたが、まだ足りない部分があり、職員全体で意識して取り組む。

6. <広報>

①本園ホームページの更新を行った。

②園開放、子育てひろばにて子ども園を知っていただいた。

③園外避難訓練時、腕章をつけて地域の方に知っていただいた。

④園開放のポスターを郵便局や病院に掲示させていただいた。

⑤散歩の行き帰りにお店の方に挨拶をしたり、声をかけていただいたりと当園を知っていただけるようになった。

⑥見学者や一時保育の希望が年々増えている。

7. <職員研修>

①職員の資質向上のため、職員会議やミーティング後に研修・伝達講習を行った。

②教育・保育計画を見直し、書類の書き方、また気になる子どもの対応や言葉の掛け方を検討した。

③造形遊び・運動遊び・律動など再確認し、年齢・時期にあったものを計画しなおす。

④11月23日、大慈保育園・兵庫保育園と合同研修で、午前中は各園の職員による劇遊び午後からグループごとのテーマに分かれて寸劇をし、表現力を高める機会となった。

8. <育児支援>

・お誕生日会・園開放・子育て応援事業時に育児相談や健康相談を行った。

・一時保育の希望が多く、できる限り受け入れた。

9. <災害・防犯避難訓練>

・毎月1回火災・防犯訓練を行った

・年4・5回けいれん・SIDS・誤食・誤飲時の訓練を行った。

・10月16日消防署の方に来ていただき、消火訓練を行った。

・9月15日交通安全教室・警察の方に不審者になっていただき、防犯訓練を実施した。

・11月5日・1月14日にシェイクアウト訓練と津波訓練をし、大倉山公園まで避難訓練を実施した。

・2月28日(火)神戸情報文化ビル(東川崎町)の訓練に招待された。

10. <健康診断・衛生>

内 容	実地日(回数)	業者等
健康診断	5月・10月	浪方医院
眼科健診	11月	中堀眼科医院
歯科健診	6月・2月	太田歯科医院
耳鼻科健診	11月	野村耳鼻科医院
ぎょう虫検査	2月	兵庫県予防医学協会
尿検査	6月	兵庫県予防医学協会

調理室の消毒	毎月（1回以上）	サニックス（株）
グリストラップ清掃	年5回	アーテックサーキュレーション（株）

1 1. 《行事内容》

月	行事名
4月	入園式
5月	クラス懇談会 5歳児大慈保育園といちご狩り お楽しみ会
6月	お楽しみ会 中央区7ヶ所公私5歳児交流 トライやるウィーク 実習生受け入れ
7月	七夕祭り プール・水遊び開始 リハビリ専門学院との交流 お泊り保育
8月	夏まつり（同園会含む）ワークキャンプ受け入れ
9月	運動会（東出町公園に慣れる）
10月	運動会 お泊り保育 遠足 中央区5歳児交流 おいもパーティ
11月	作品展 お楽しみ会 保育参観ウィーク
12月	音楽会 クリスマス会
1月	よいこの集い おもちつき 六甲山そり遊び遠足（大慈の5歳児と）
2月	豆まき 生活発表会
3月	お別れ遠足 お別れ会 卒園式 交流

1 2. 《月間行事》

行事名	
ECC英語教室3歳児クラス（月1回）	ほまれっこくらぶ（月2回）
ECC英語教室4・5歳児クラス（月2回）	子育て広場（月1回）
お誕生日会（月1回）	

1 3. 《平成28年度在籍児一覧表》

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	7	12	13	16	13	11	72	120%
5月	7	12	13	16	13	11	72	120%
6月	7	12	13	16	13	11	72	120%
7月	7	12	13	16	13	11	72	120%
8月	7	12	13	16	13	11	72	120%
9月	7	12	13	16	13	11	72	120%
10月	7	12	13	16	13	11	72	120%
11月	7	12	13	16	13	11	72	120%
12月	7	12	13	15	13	11	71	118%
1月	7	12	13	15	13	11	71	118%
2月	7	12	13	15	13	11	71	118%
3月	7	12	13	15	13	11	71	118%
合計	84	144	156	188	156	132	860	119%

14. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

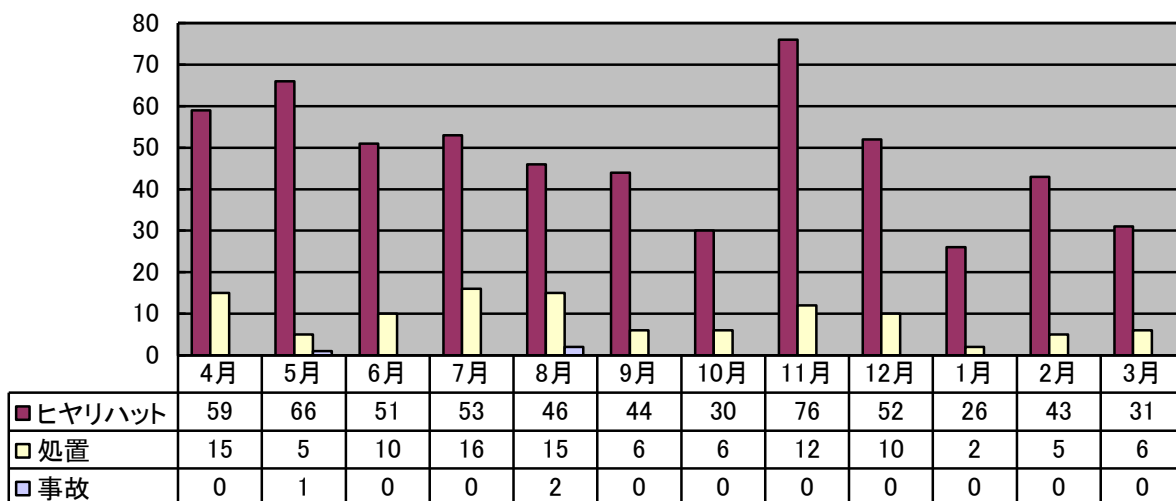
平成28年度				
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置
	705件	3件	594件	108件

平成27年度 642件（事故9件 ドキドキ440件 処置199件）

平成26年度 634件（事故9件 ドキドキ481件 処置144件）

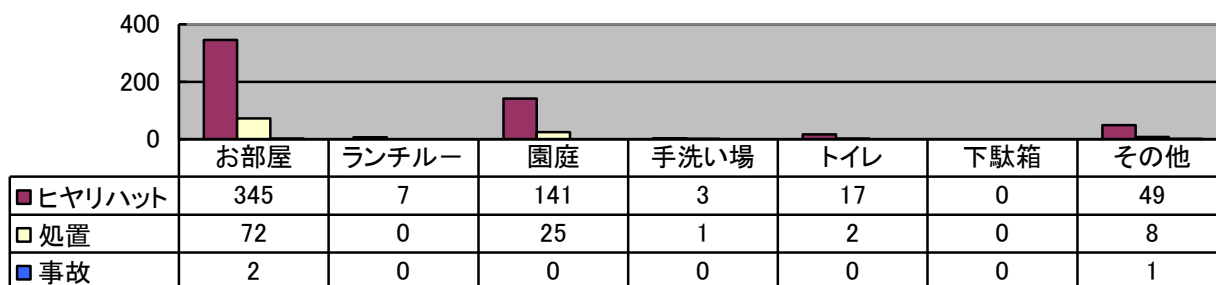
① 月別発生件

→園外へ出駆る機会が多い5月・11月にヒヤリハットが多かった。



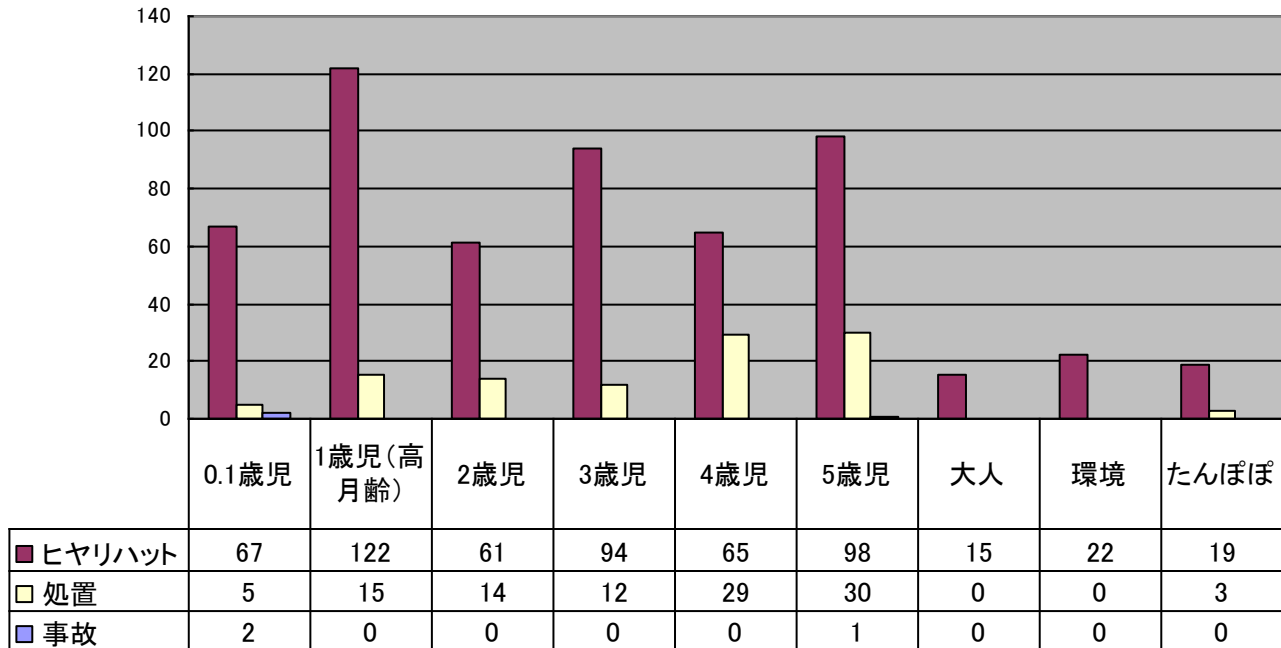
② 場所別件数

→一番長くいる保育室が多かった。

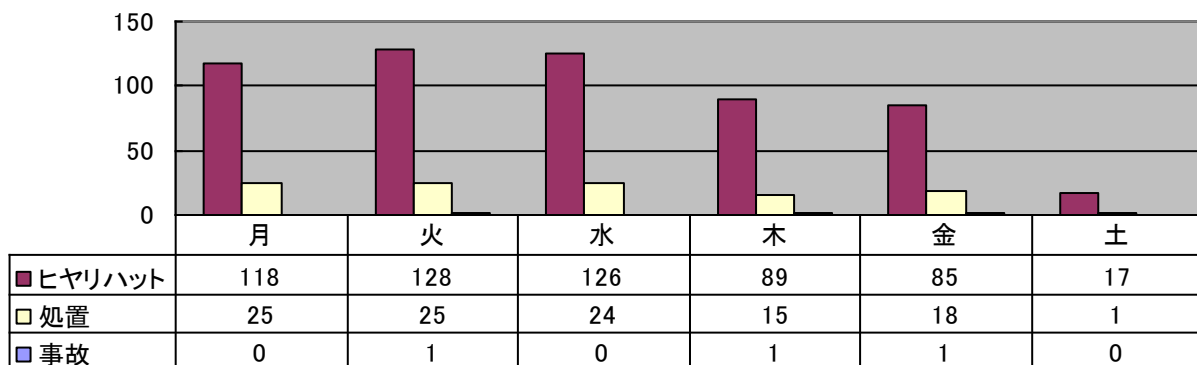


② クラス別発生件数

→友達との関わりの中で叩いたり、押したりによるヒヤリハットが多かった。



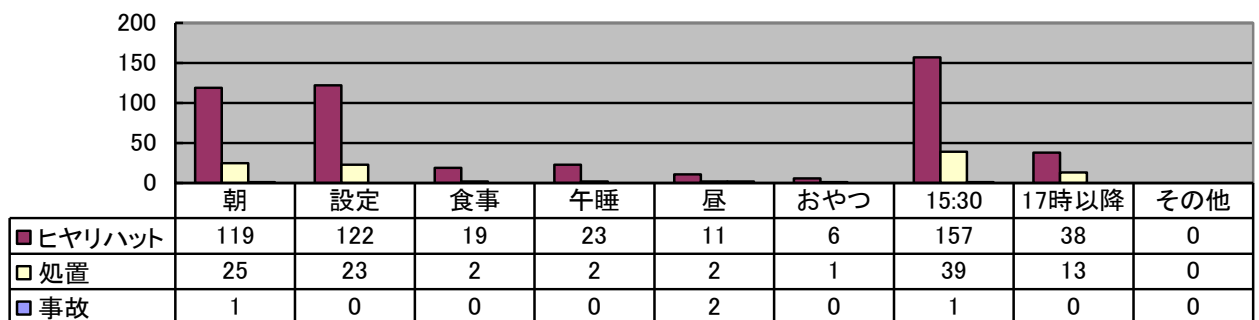
④ 曜日別発生件数



→常に注意して見ていきヒヤリハットや気付いたことなど報告するようにする。

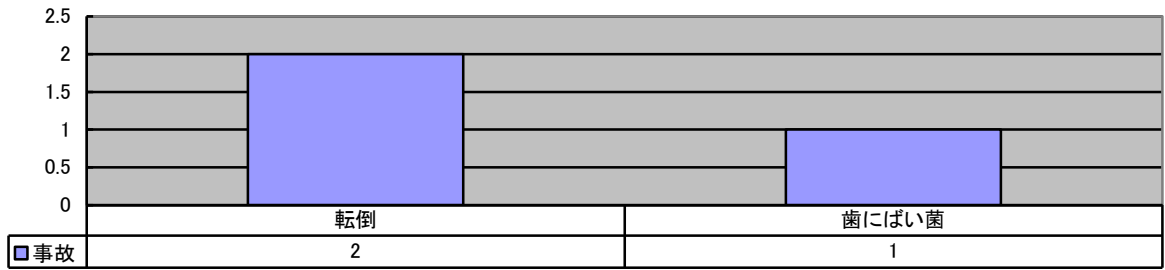
⑤ 時間帯別発生件数

→15:30が多いのは、異年齢が合同になるためと考える。



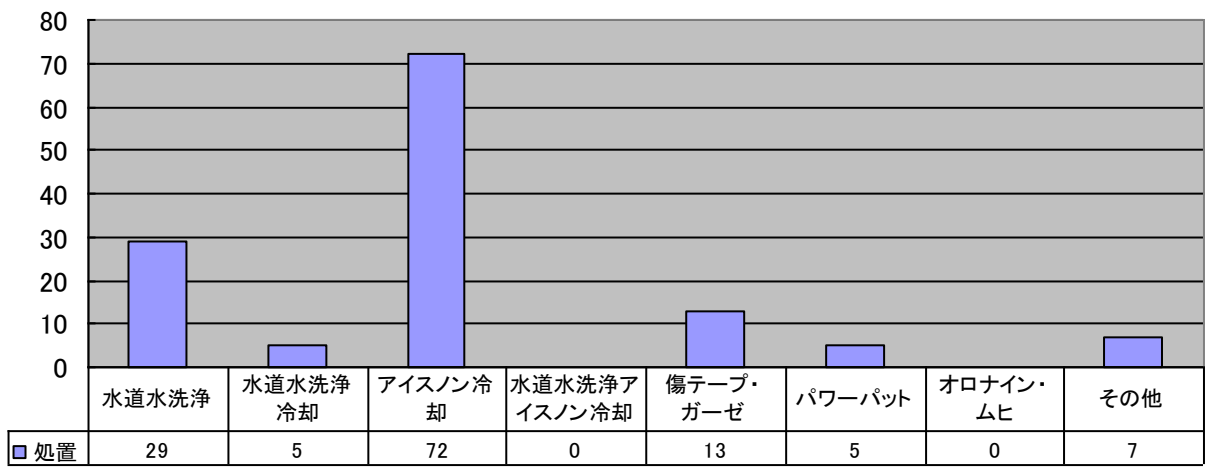
⑥事故発生内容 3件（1歳児・2歳児）

- 走っていて転倒し、手を付かず床で口を打つ→歯に影響なし
- ・ 右の生えかけている奥歯から出血→ばい菌が入り腫れていた様子
- ・ 他児に押され転倒した際、頭髪の髪留めで頭に傷がつく→異常なし



⑦処置内容

→アイスノン冷却が多い。



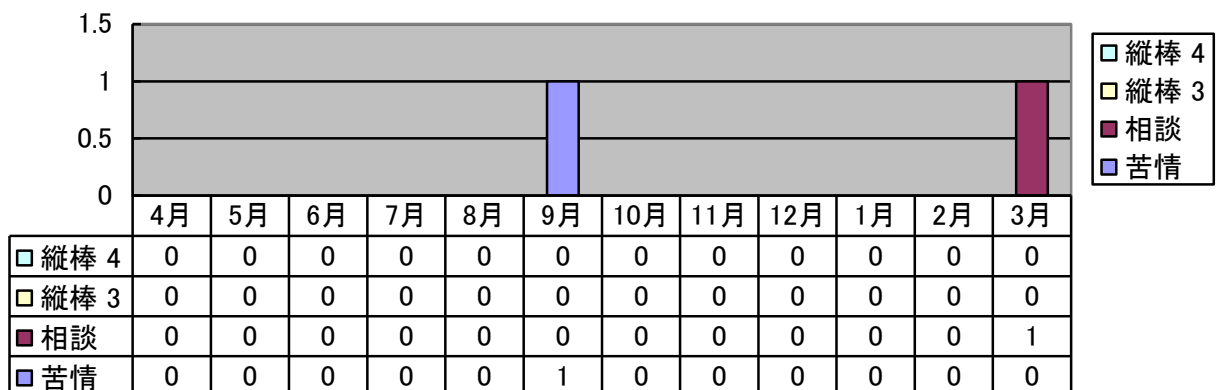
⑧まとめ

乳児の嘔みつき、すこやか児との関わりの中で多く出ている。些細なことでも情報を共有し、職員全員が把握して危険なことを減らしていくように心がける。
 後半乳児が友だちとの関わりから、嘔み付き、引っかけの行動が多くなったので、未然に防げるように必ず付くようにし、仲立ちをしながら、遊ばせる

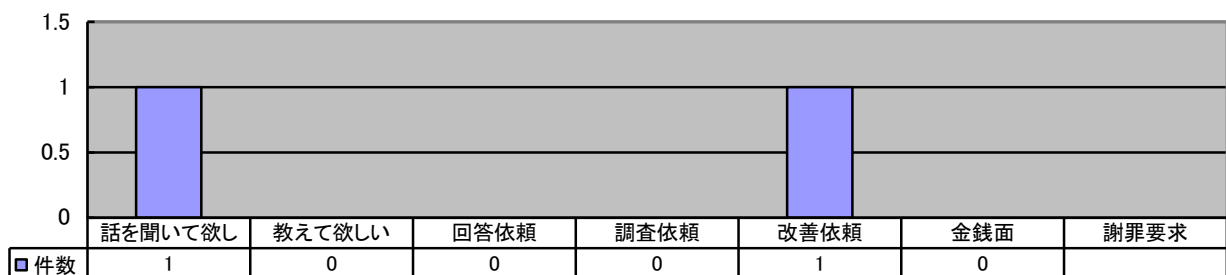
15. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

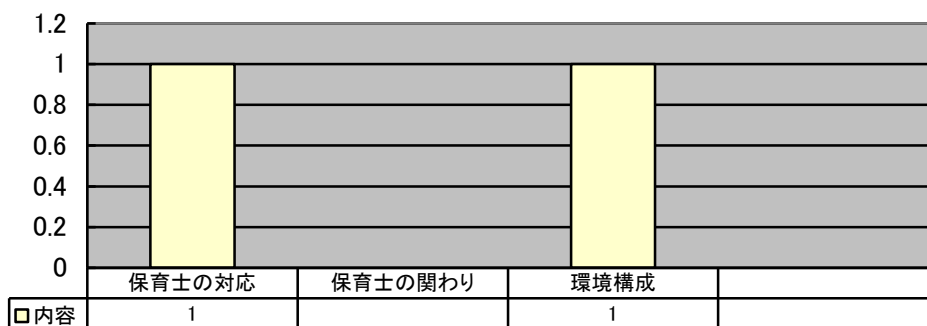
○報告件数・・・2件



要望分類



主な内容



○まとめ

- ・苦情は、子どもの傘を間違えて持って帰ったことで、挙がった。子どもの持ち物には同じようなキャラクターものも多く、勘違いから生じた。持ち物には大きく名前を書いていただくことと確認をして持って帰っていただくことを周知した。
- ・相談は、保護者同士のラインのことで、嫌な思いをしているとのことで、悩みをよく聞くようにする

《総括》

保護者や子どもたちも、こども園としての流れが出来てきて園らしい生活が出来るようになって、園生活を楽しんでいる様子が伺われる。駅が近く、通勤に便利で、正規で働いている人が多く、保護者も協力的である。開園から3年が経過し、節目の年としてそれに甘えず、もう一度職員全員で保育を見直し、「みんなで みんなを育てる 大家族」を意識して 一人一人に寄り添って丁寧に関わることで、より良い信頼関係が築けるよう、職員全体で盛り上げていく

ことを意思統一した。

年度末のアンケートでは、ほとんどの保護者が保育方針や保育士の対応に好感を持って頂いているという結果だった。感謝の言葉が多く、安心して預けられていることを実感したが、中には厳しい言葉もあったので、今後よりいっそう信頼関係が築けるよう職員一人一人が子ども達のために保護者に寄り添って、共育てをしていきたい。

また、地域にこども園を知っていただくようになり、実習生・ワークキャンプ・トライやるウィークも受け入れ、交流を深めている。地域におけるこども園の役割りを全職員が理解し、一時保育も充実させ、子育て家庭への支援を行っていきたい。今後地域の子育てコミュニティの拠点となるよう努めていきたい。